

# 第1回 かのや未来デザイン会議

期 日：令和4年10月12日（水）

時 間：15:00～17:00

場 所：7階大会議室

---

## 会 次 第

### 1 開 会

### 2 対策本部長あいさつ

### 3 説 明

鹿屋市を取り巻く人口減少の現状について

### 4 座長選出

### 5 議 事

（1）ビジョン策定の基本的な考え方について（案）

（2）ビジョン策定作業の進捗状況について

①これまでの取組の効果検証（案）

②重点施策（案）（今後の新たな取組）

（3）その他

### 6 閉 会

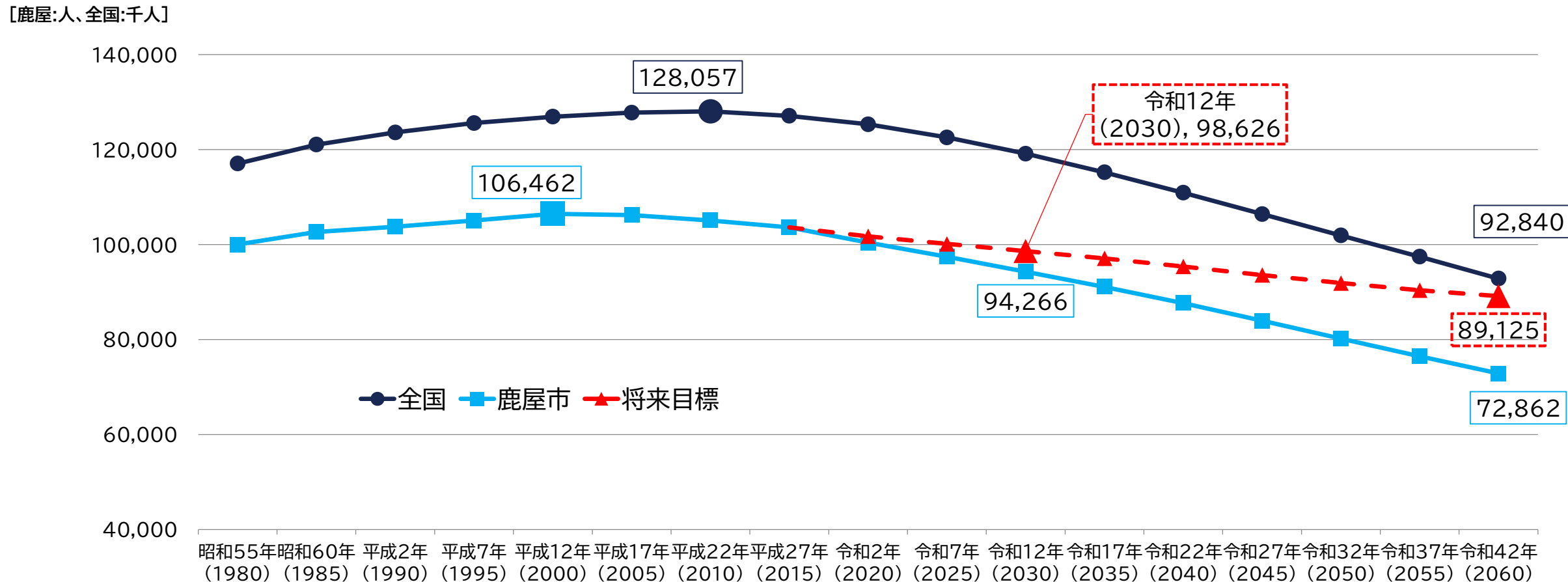
# 鹿屋市を取り巻く人口減少の現状

- 1 人口の動向
- 2 人口減少の要因
- 3 鹿屋市の特徴
- 4 人口減少による影響

# 1 人口の動向

## (1)人口の減少・・・①総人口の推移と将来推計(&将来目標)

- ◆ 我が国では2010年の1億2,800万人をピークに人口減少がスタート
- ◆ 鹿屋市は2000年の10万6,462人がピークであり、国より10年早く人口減少がスタート

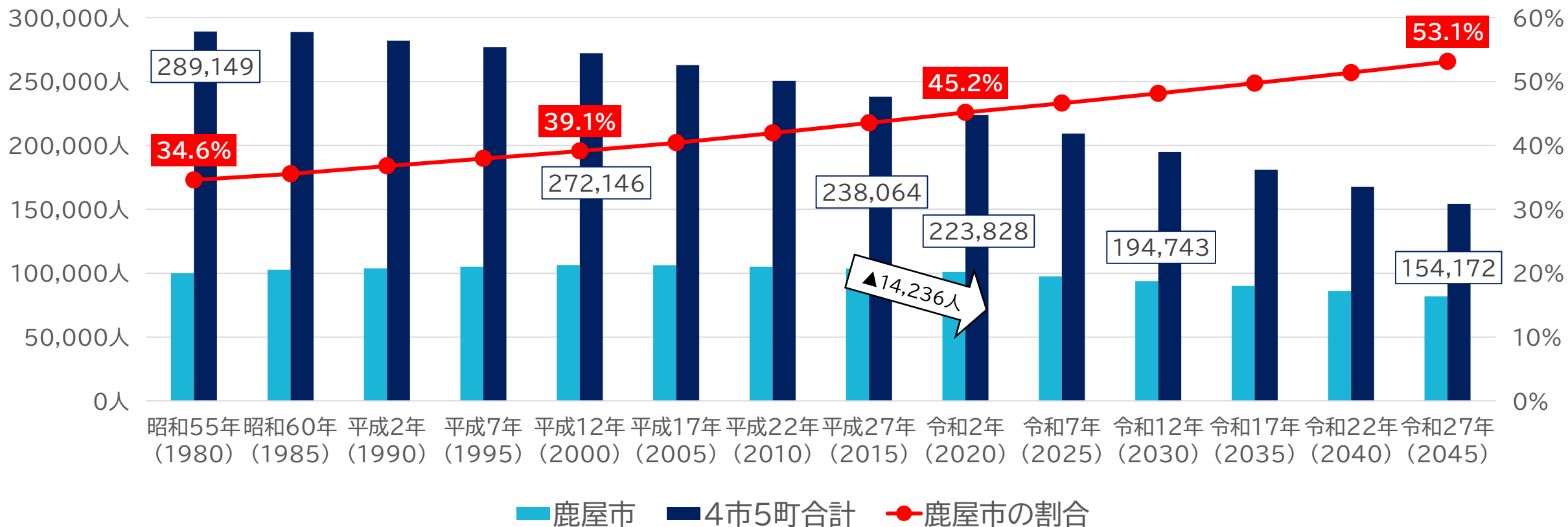


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」、鹿屋市「鹿屋市人口ビジョン」

# 1 人口の動向

## (1)人口減少・・・②大隅半島(4市5町)の人口と鹿屋市の占める割合の推移

- ◆ 大隅半島全体の人口は2015年から2020年の5年間で約14,000人減少。2030年には20万人を下回ると予想される
- ◆ 大隅半島全体の人口減少幅は鹿屋市よりも大きい⇒3市5町の人口減少が特に顕著
- ◆ 大隅半島全体人口に占める鹿屋市の割合は50%以上になると予想される

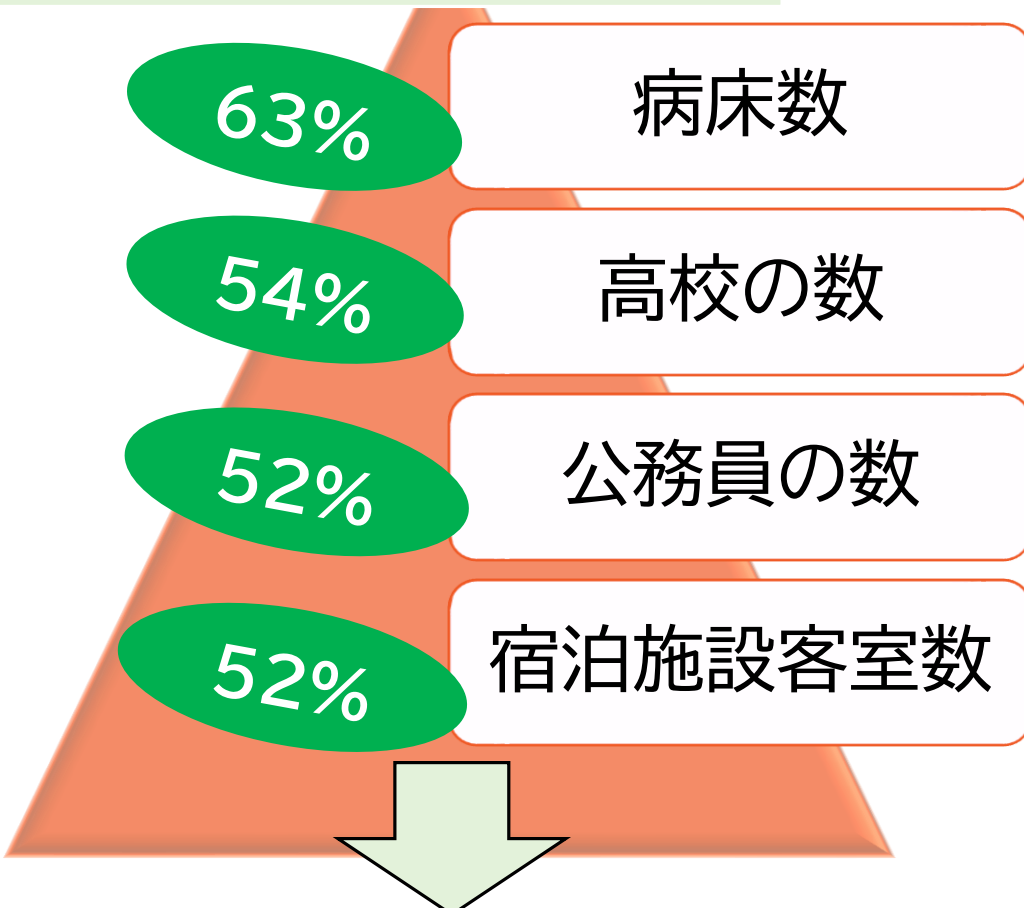


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

# 大隅地域における鹿屋の位置づけ

区分	官公庁関連 事業所 (従業者数)	病床数	宿泊施設 (客室数)	高校
総数	11,113	4,075	2,003	13
鹿屋市	5,771	2,561	1,040	7
垂水市	580	126	235	1
曾於市	1,343	659	103	1
志布志市	1,398	363	251	2
大崎町	377	-	181	-
東串良町	194	-	-	-
錦江町	398	196	19	-
南大隅町	303	-	81	1
肝付町	749	170	93	1

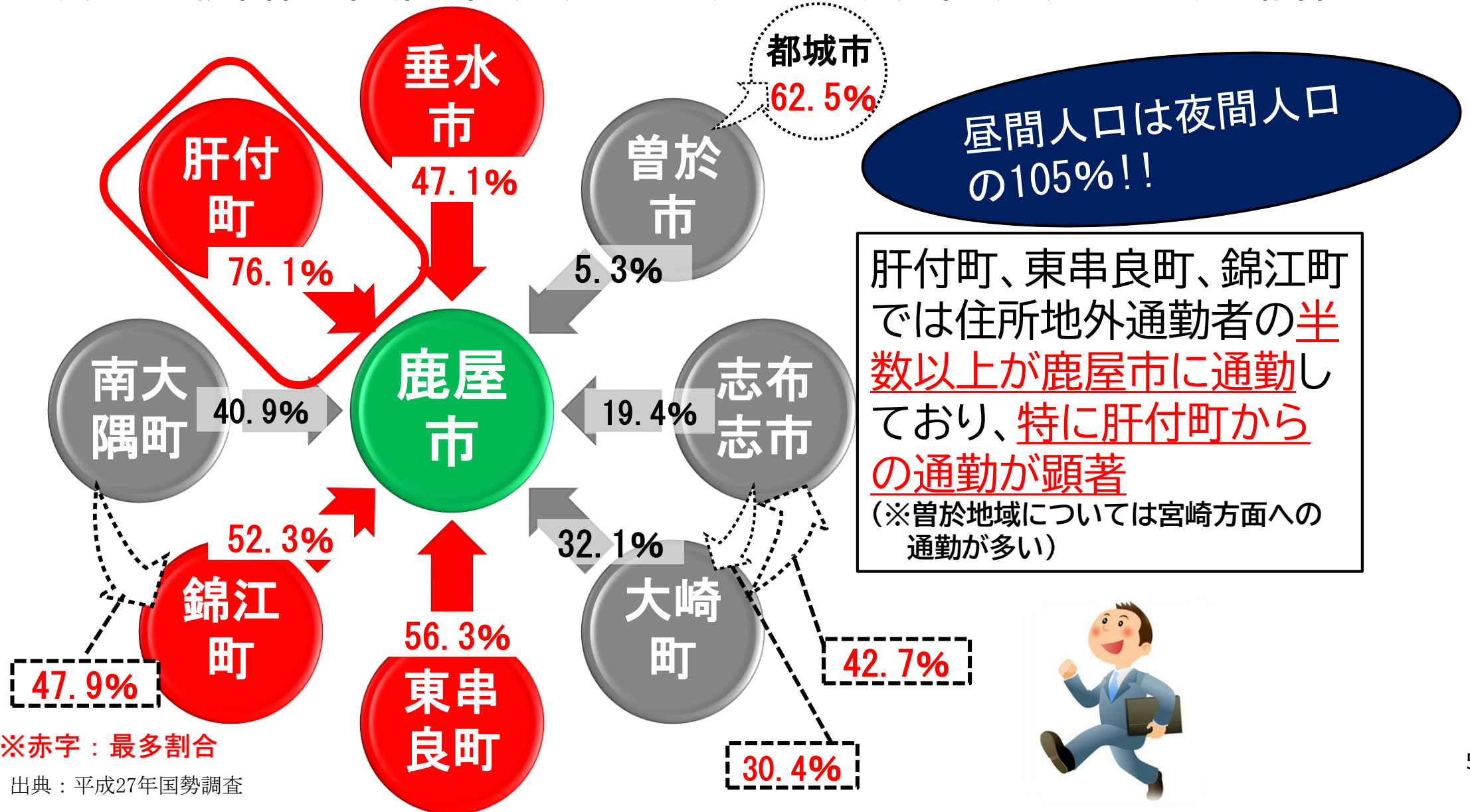
大隅地域で本市が占める割合



大隅地域の中心都市として、  
「人」・「モノ」が集積

# 住所地外への通勤構図

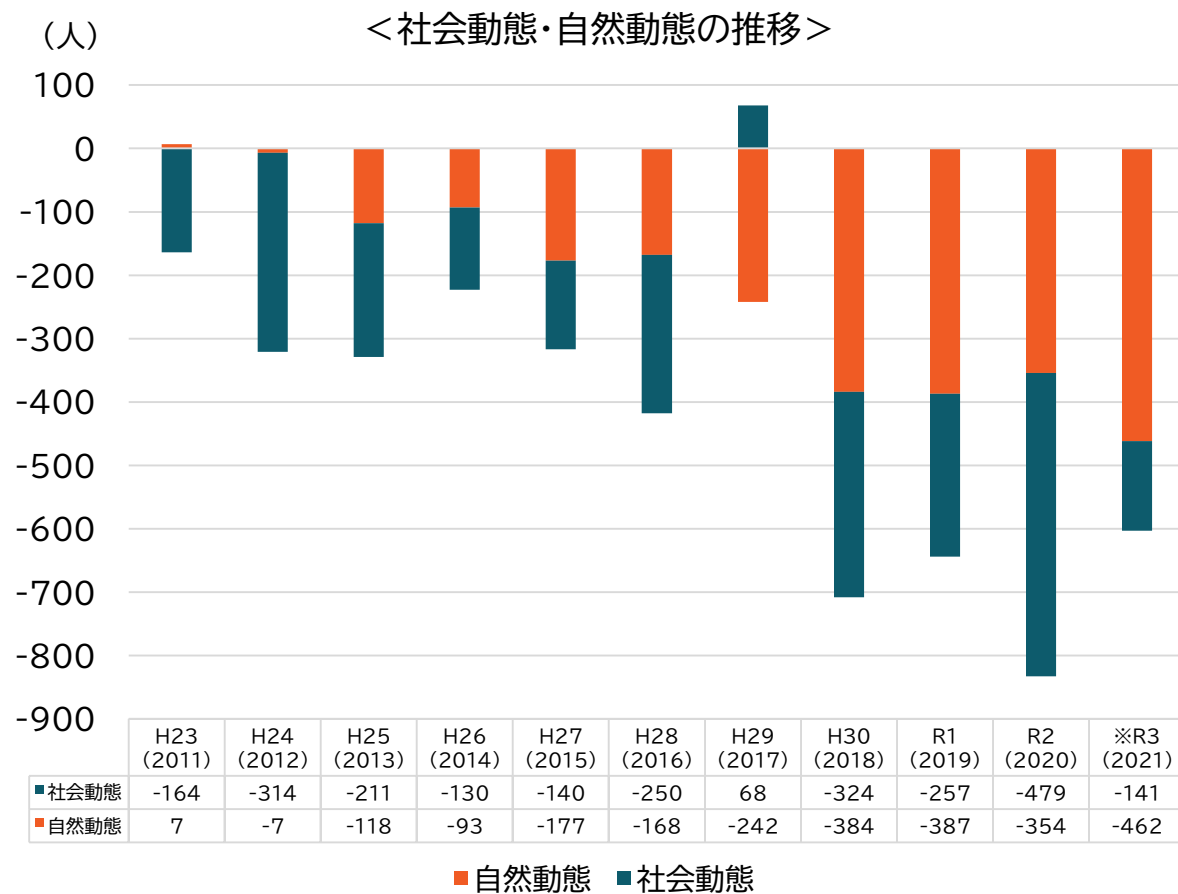
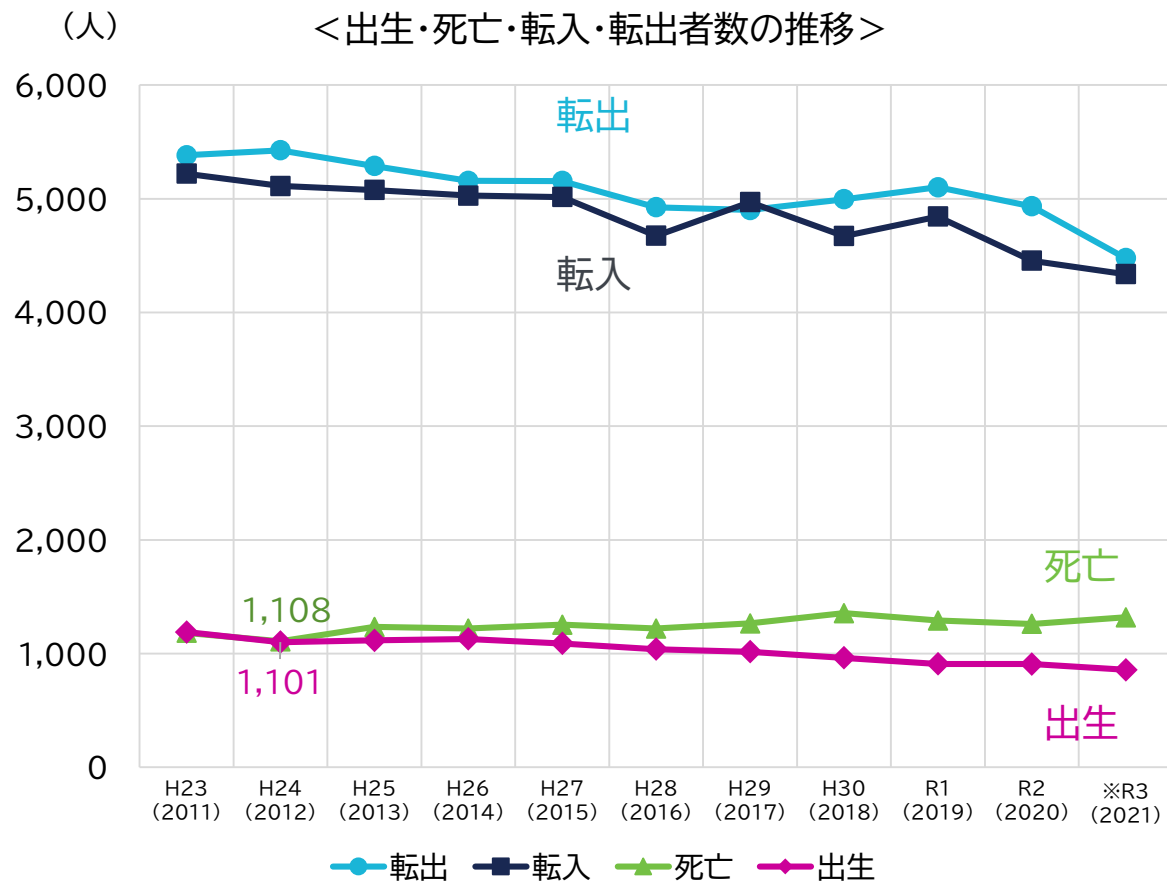
15歳以上の就業者で、住所地外へ通勤している人のうち、鹿屋市に通勤している人の割合



# 1 人口の動向

## (2) 人口動態の推移

◆ 平成24年に死亡数が出生数を上回り、自然動態のマイナス幅が拡大したことで人口減少が顕著となる

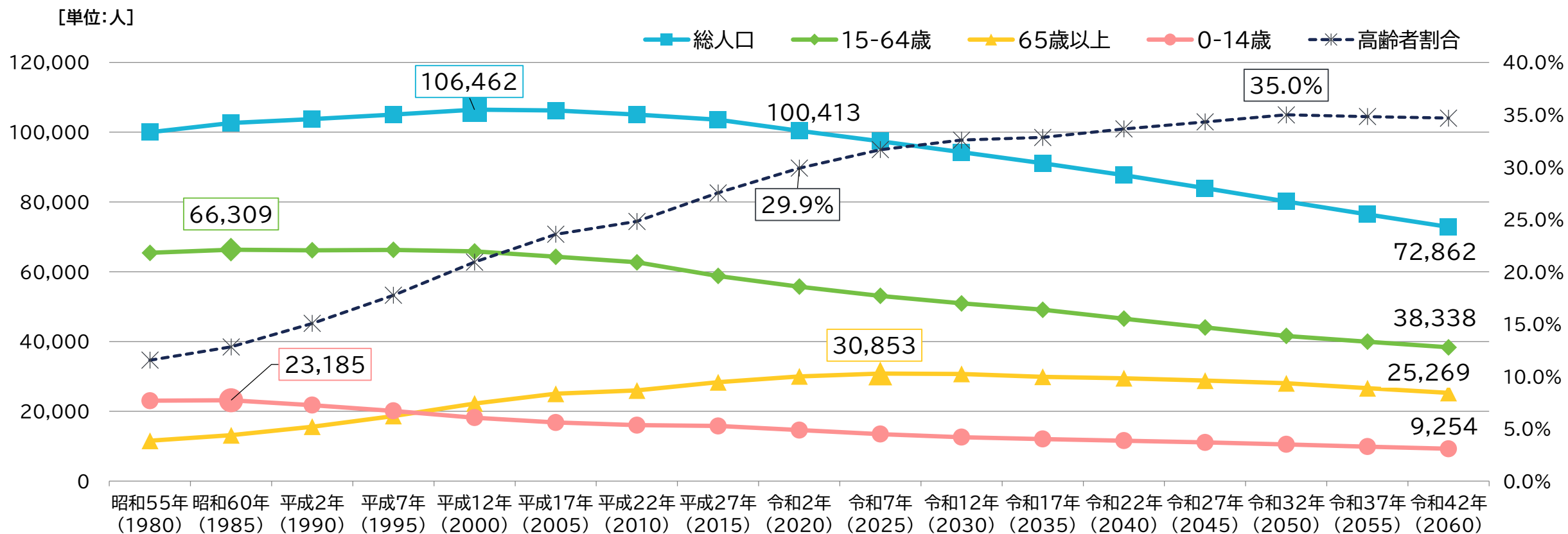


【出典】社会動態：鹿児島県人口移動調査(推計人口)、自然動態：鹿児島県人口動態統計  
 ※R3の自然動態は未公表のため、推計人口で表示

# 1 人口の動向

## (3) 年齢3区分別人口と高齢者割合の推移

- ◆ 0歳から14歳の年少人口と15歳から64歳までの生産年齢人口の減少が顕著
- ◆ 65歳以上の老年人口は2025年にピークになるが、総人口に占める高齢者割合はその後も上昇すると予想される



【出典】総務省「国勢調査」、鹿屋市「鹿屋市人口ビジョン」



# 1 人口の動向

## (4) 地域別人口の増減と高齢化率

- ◆ 高隈、高須・浜田、輝北地域は20年で30%を超える人口が減少
- ◆ 人口減少が顕著な地域では高齢化率も高く、既に老年人口（65歳以上）の減少も始まっている。

	地域名	2000年	2020年	増減	増減率	高齢化率(2020年)
1	市街地中心地域	9,596人	9,198人	△398人	△4.1%	29.3%
2	寿	21,939人	27,519人	5,580人	25.4%	20.7%
3	西原	19,447人	18,627人	△820人	△4.2%	26.7%
4	高隈	2,246人	1,484人	△762人	△34.0%	47.6%
5	東原・祓川	3,464人	2,757人	△707人	△20.4%	38.9%
6	田崎	8,790人	9,413人	623人	7.1%	26.9%
7	大始良	7,877人	6,536人	△1,341人	△17.0%	36.5%
8	高須・浜田	1,928人	1,184人	△744人	△38.6%	57.7%
9	古江・花岡	5,138人	3,786人	△1,352人	△26.3%	40.1%
10	輝北	4,567人	2,899人	△1,668人	△36.5%	47.0%
11	串良	14,135人	12,071人	△2,064人	△14.6%	34.7%
12	吾平	7,537人	6,278人	△1,259人	△16.7%	37.0%
	合計(市全体)	106,664人	101,752人	△4,912人	△4.6%	29.6%

【出典】鹿屋市「住民基本台帳月報（各年9月末現在）」

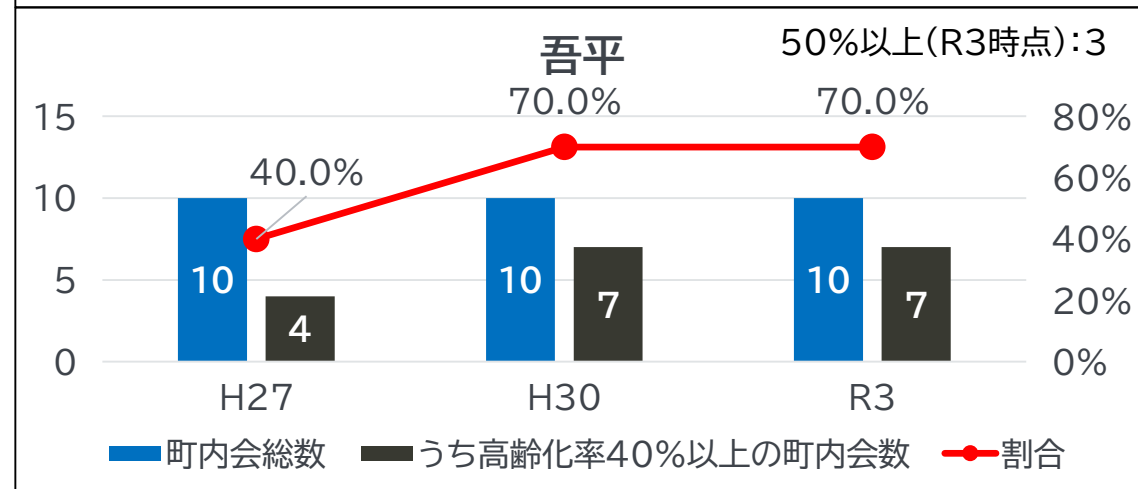
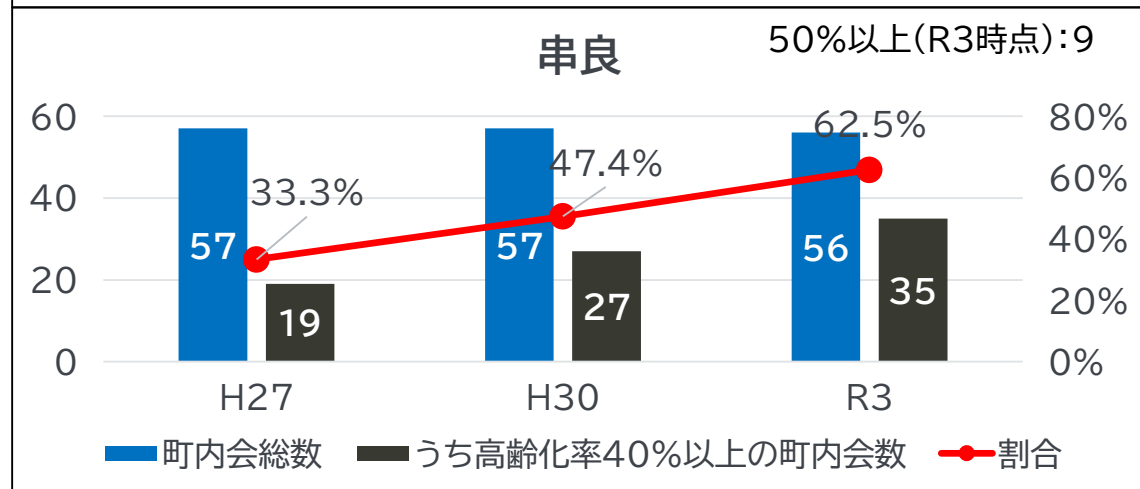
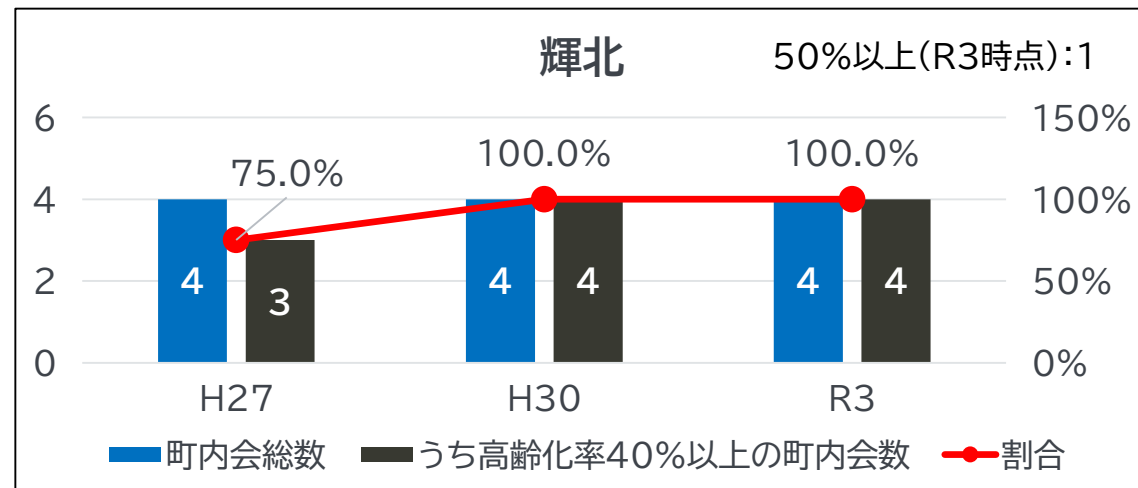
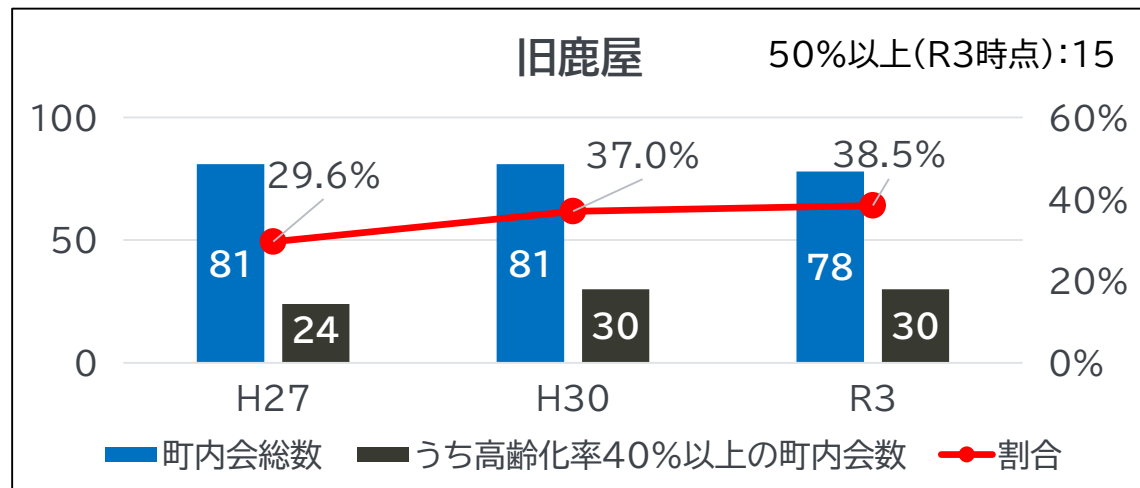
※ 地域別人口は、住民基本台帳人口の数値であるため、国勢調査の結果とは一致しない。

# 1 人口の動向

## (5) 高齢化率40%以上の“限界が近づく町内会(※)”

※高齢者が半数以上(50%以上)の集落  
=限界集落

◆ 高齢化率40%以上の町内会が増加しており、町内会の機能維持が危ぶまれる。

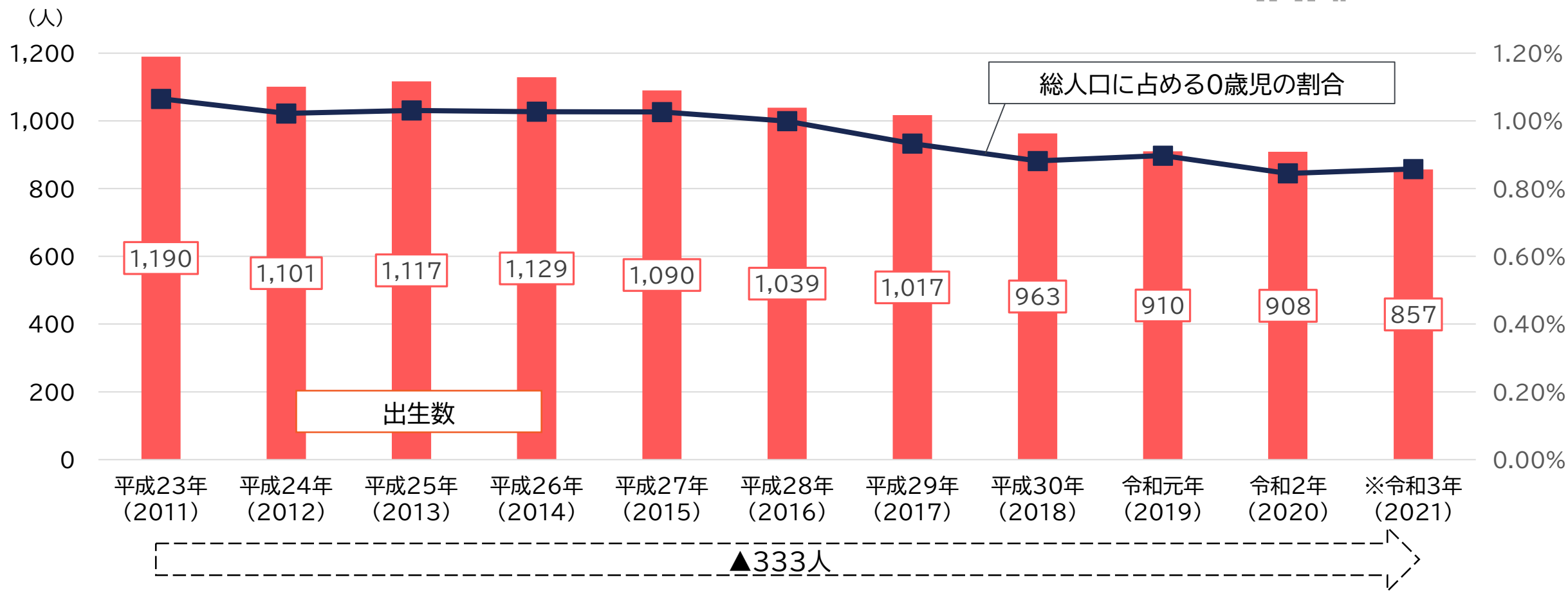


【出典】鹿屋市「住民基本台帳月報(各年度12月末時点)」

# 1 人口の動向

## (6) 出生数の推移

- ◆ 出生数は年々減少傾向にあり、令和3年(※)は900人を割込む
- ◆ 平成23年からの10年間で333人(27.9%)減少
- ◆ 総人口に占める0歳児の割合も年々減少しており、少子化が進行



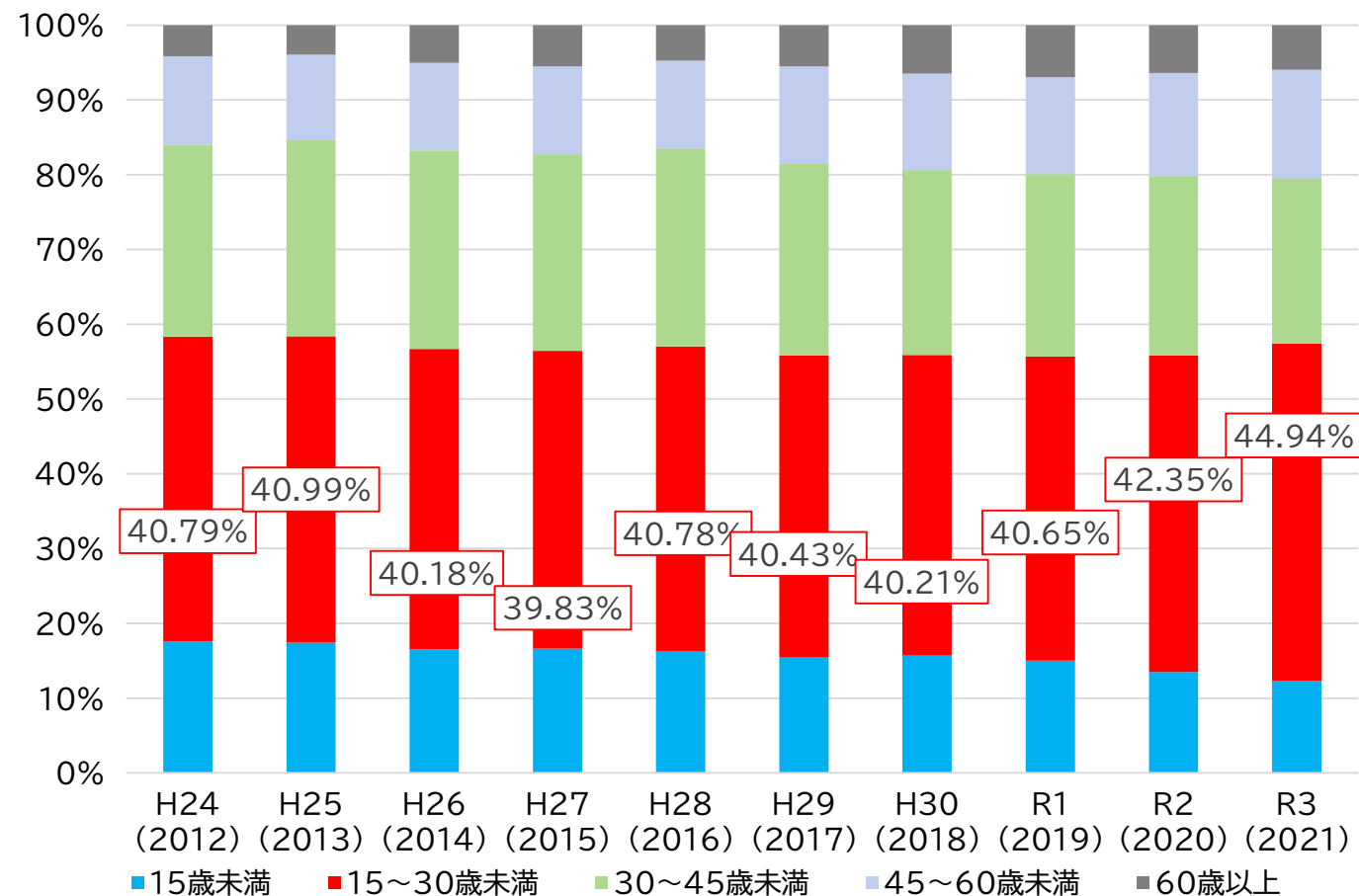
【出典】 鹿児島県人口動態統計

※R3は未公表のため鹿児島県人口移動調査(推計人口)で表示

## 2 人口減少の要因

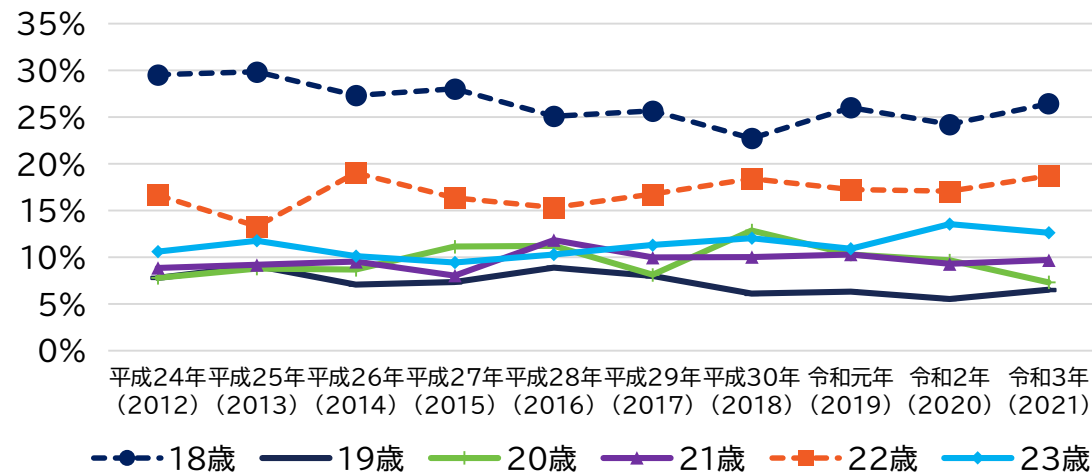
### (1) 若年層の転出による社会減少

- ◆ 転出者数に占める15～30歳未満の転出割合が全体の約45%を占める
- ◆ 男女とも特に18歳・22歳の流出が顕著⇒進学・就職で市外転出

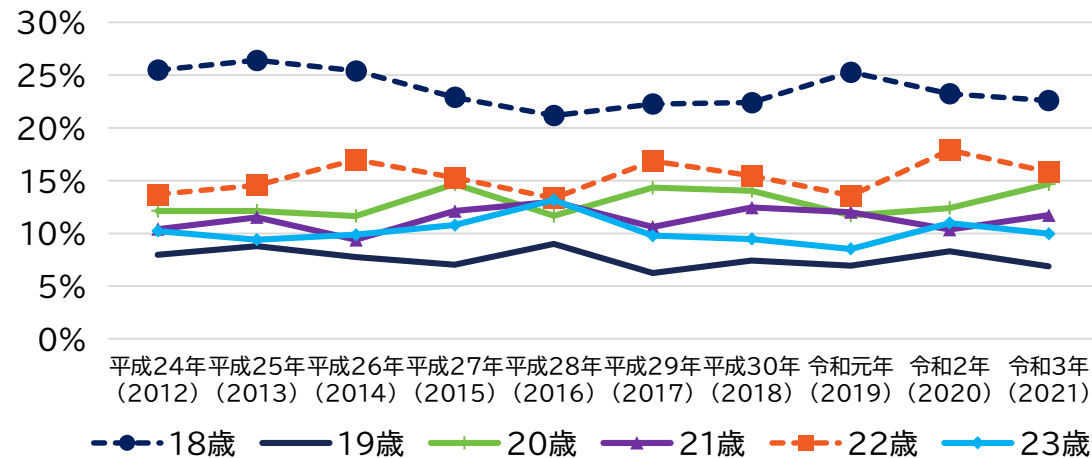


【出典】鹿屋市住基システムから独自推計

#### 若年男性の転出割合

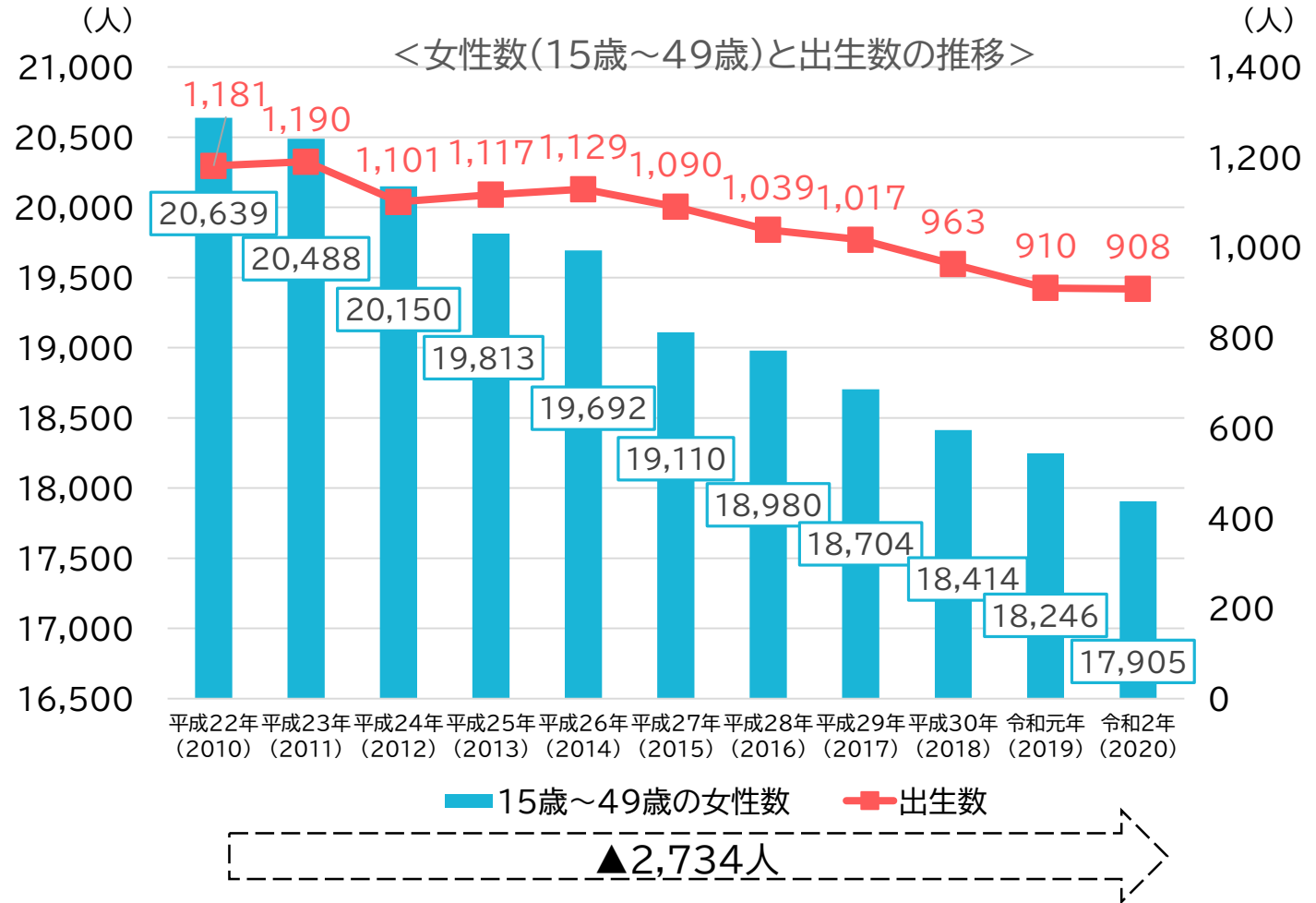
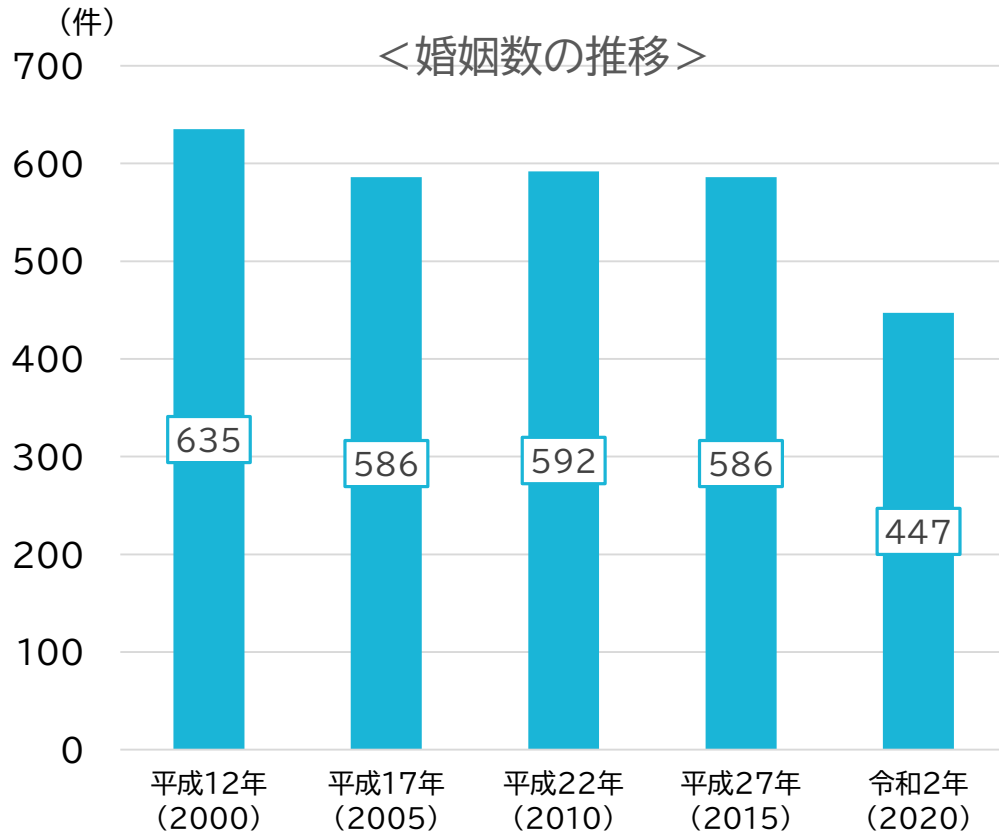


#### 若年女性の転出割合



## 2 人口減少の要因

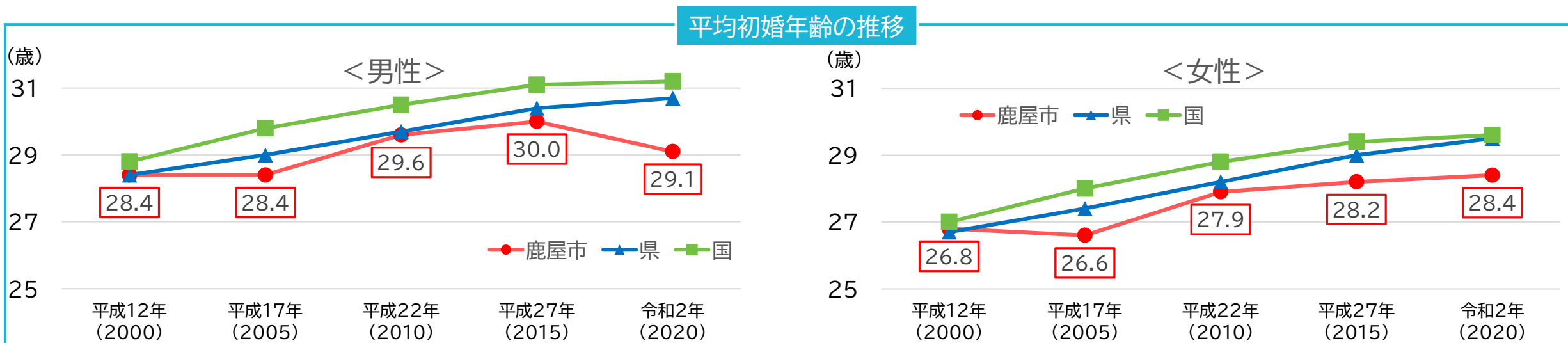
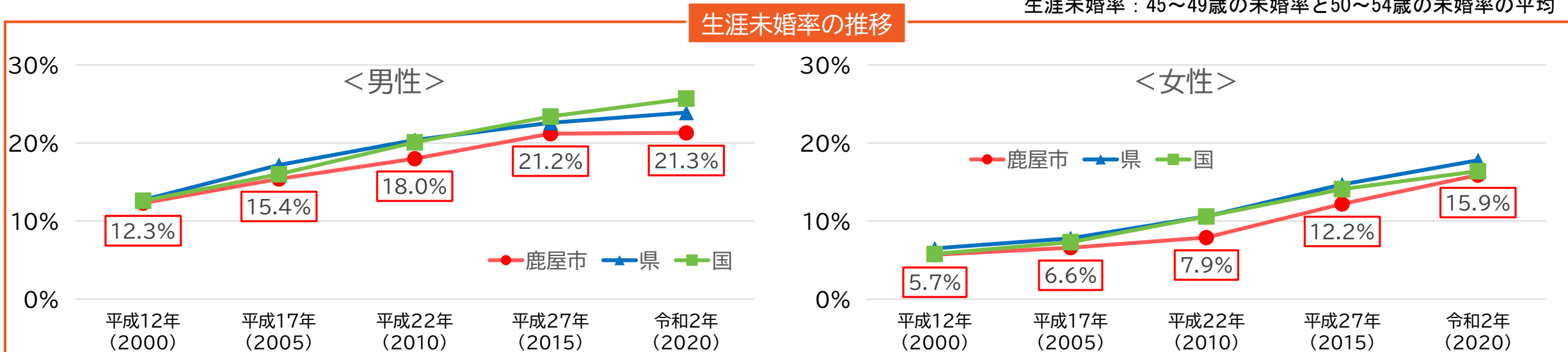
### (2) 婚姻数の減少と母となる人口の減少(“少母化”)による少子化の進行



## 2 人口減少の要因

### (3) 生涯未婚率と平均初婚年齢の上昇(未婚化・晩婚化)による少子化の進行

生涯未婚率：45～49歳の未婚率と50～54歳の未婚率の平均

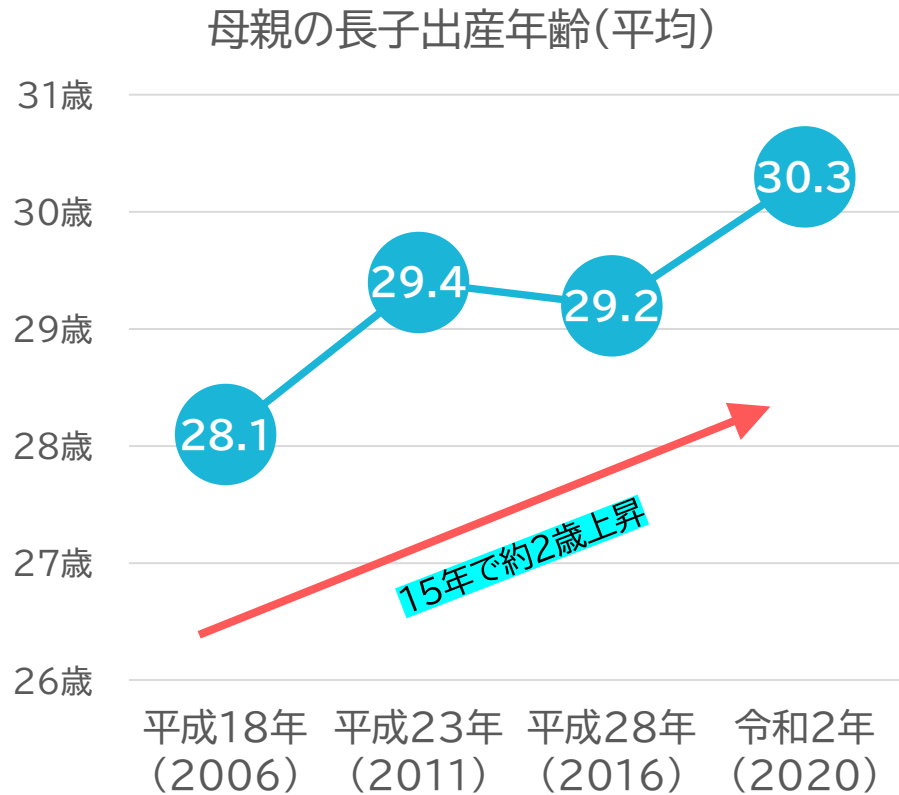


【出典】総務省「国勢調査」、鹿児島県人口動態統計

## 2 人口減少の要因

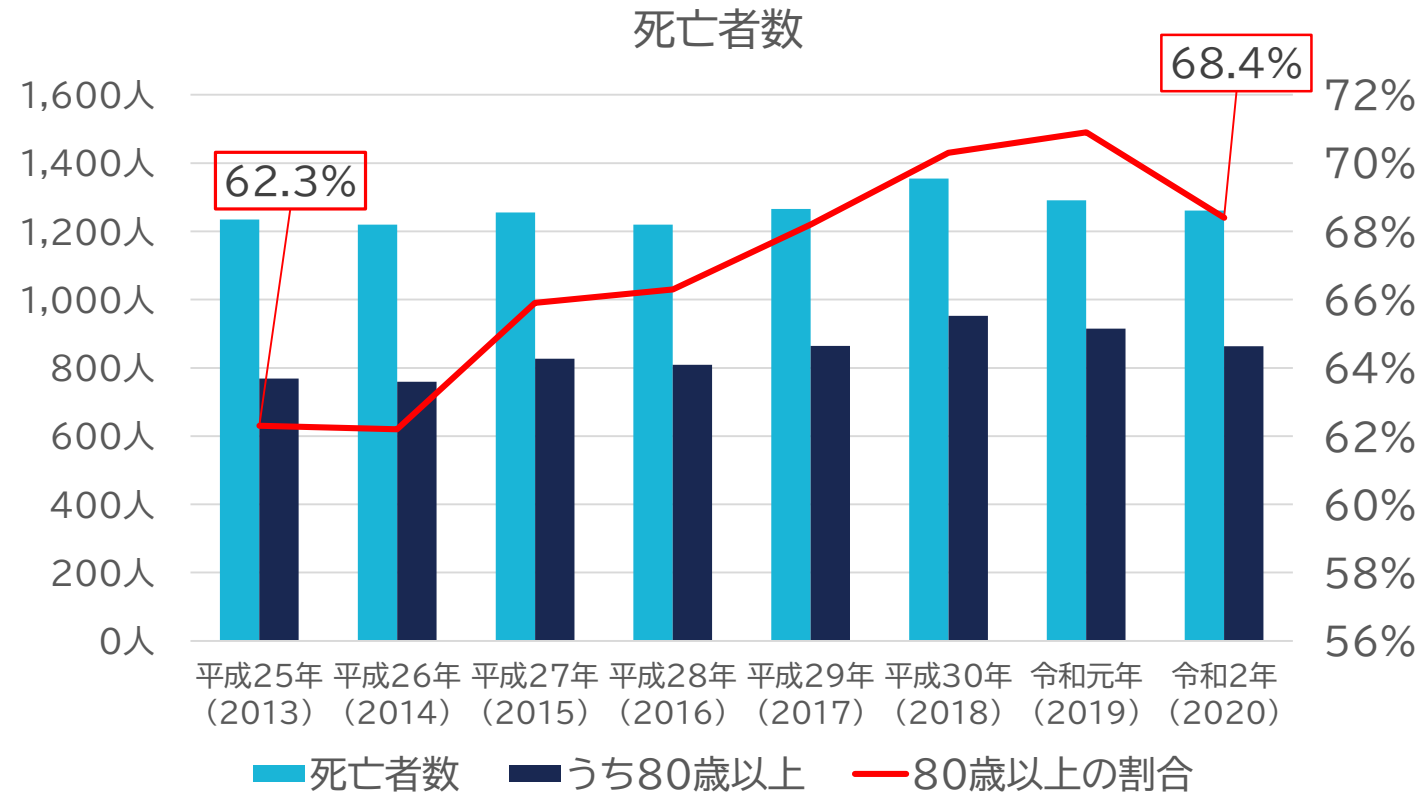
### (4) 晩産化による少子化の進行

- ◆ 母親の長子出産年齢が上昇 = “晩産化” が進行



### (5) 高齢者の増加に伴う高齢死亡者数の増加

- ◆ 死亡者数全体に占める80歳以上の割合が増加傾向



【出典】総務省「国勢調査」、鹿屋市「住民基本台帳月報」、鹿屋市住基システムから独自推計

### 3 鹿屋市の特徴

- (1) 市内高校卒業者のうち就職をした生徒の約8割は、市外へ
  - ・一度、市外に出ても、キャリアを活かせる雇用環境を整える必要があります。
- (2) 高齢者人口が減少している地域がある。
  - ・高齢化率の高い輝北、高隈、高須・浜田では、高齢者人口の減少が始まっています。
- (3) 合計特殊出生率が全国的にも高い。
  - ・H25～H29の5年間の平均値「2.01」
- (4) 若い世代（20代）の有配偶女性の出産率が高い。
  - ・20～24歳：46.4%、25～29歳：28.7%
- (5) 今後、コロナ禍において、1990年以後に生まれた世代の結婚、妊娠・出産が、さらに低下する可能性がある。
  - ・令和2年に25～29歳（平成3～7年生まれ世代）の出生率(0.608)は、前の世代(0.699)と比較すると低く、また、令和2年の婚姻数も平成27年比で76%（586件⇒447件）と大きく減ってきています。



# 4 人口減少による影響

## (1) 地域経済への影響

生産年齢人口の減少  
消費人口の減少

労働力不足  
農業分野における担い手不足



市場縮小による地元商業の維持の困難化  
生活支援サービスの維持の困難化

雇用の量及び質の低下  
耕作放棄地の増加



中心市街地の空洞化の進行



経済のマイナス成長  
人口減少の加速化

# 4 人口減少による影響

## (2) 地域生活への影響



### 地域の担い手不足

- ・コミュニティの共助機能の低下
- ・伝統文化・芸能の保存継承の困難化

コミュニティの希薄化による  
地域の防犯力・防災力の機能低下

### 児童・生徒の減少

- ・学校存続の困難化
- ・公共交通の撤退

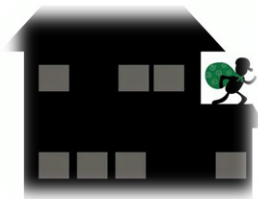


学校再編問題、教育格差の拡大  
通学・通勤者や高齢者の移動手段の確保が困難

### 空き家の増加

- ・危険家屋の増加
- ・空き巣等の防犯上の問題

家屋倒壊など二次災害の増加  
安全安心な暮らしに影響



こんなことも起こるかも？

- ・空き家にスズメバチが巣をつくるため、襲われる可能性が高くなる
- ・ガソリンスタンドが無くなり灯油が買いにくくなる



# 4 人口減少による影響

## (3) 医療・福祉分野への影響

高齢人口の増加



生産年齢人口の減少



社会保障制度の維持の困難化



独居高齢者の見守り不足



老老介護

家庭内の不慮の事故原因  
(消費者庁「News Release」(2016)より)

- 1位 溺死 溺水
- 2位 窒息
- 3位 転倒 転落

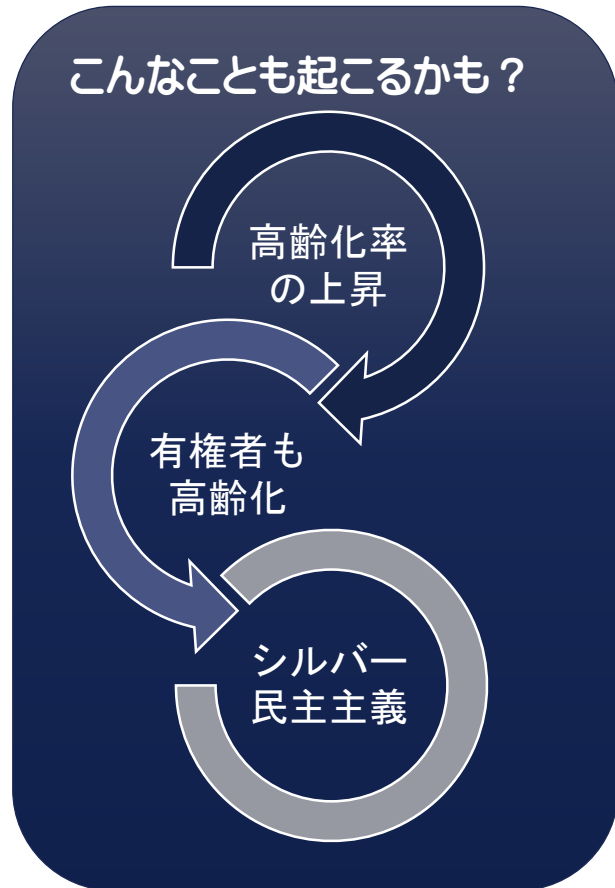


溺死者の91%が高齢者！(東京消防庁資料より)

独り暮らしで助けが呼べない  
⇒ 伴侶に先立たれると自宅が凶器と化す!!

# 4 人口減少による影響

## (4)行政サービスへの影響

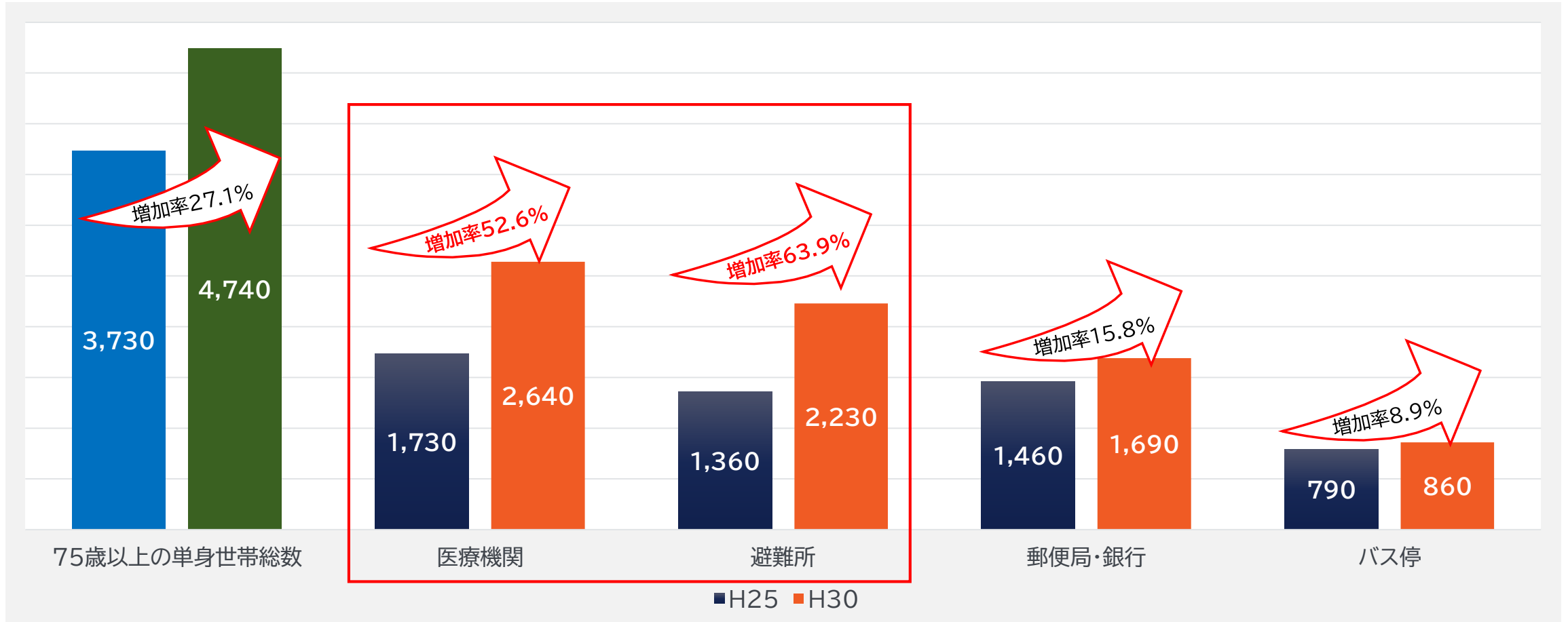


<シルバー民主主義>  
高齢者優遇の政治により必要な改革が阻止される現象

## (追加資料)地域が抱える課題

最寄りの各機関までの距離が1km以上ある75歳以上単身世帯数(鹿屋市内)

- ◆ 5年間で75歳以上単身世帯が27.1%増加⇒独身世帯の高齢化や死別が原因と考えられる
- ◆ 特に増加率が高いのが「医療機関」と「避難所」であり、今後免許返納が進めば、通院や避難が大きな課題となる



【出典】総務省「住宅・土地統計調査」

## ビジョンの策定の基本的な考え方について（案）

## 1 背景・目的

- わが国の人口（国勢調査）は、2010年の約1億2,805万人をピークに、2015年に約1億2,709万人、2020年に約1億2,615万人と10年間で約190万人減少し、2053年には1億人を下回ることが予測されています。
- 大隅4市5町では、2015年から2020年の5年間で、約14,000人が減少し、人口約22万人となっています。本市は、大隅地域の人口の約45%を占め、企業や医療・福祉施設、教育機関、商業施設などの都市機能が集中しており、大隅地域の働き・学び・暮らしの場でもあります。
- 本市では、国よりも10年早い2000年に人口減少が始まり、2006年の合併以降、10万人を維持していた人口は、2022年4月1日現在の人口で10万人を下回り、年少人口と生産年齢人口の減少による少子高齢化が進行しています。
- 本市の人口減少については、出生率（人口1,000人当たり）は同規模の都市と比較して高いものの、東京圏など都市部へ人口が集中している状況において、若年層の進学・就職による市外転出（社会減）が大きな要因となっています。また、子どものUターンについては「本人の意思を尊重する、望む環境で頑張ってほしい」など、親の意識の変化も見受けられます。
- 人口減少は、買い物・交通弱者の問題、空き家の増加や企業等での人材不足、担い手不足による地域機能の低下をはじめ、消費人口の減少に伴う地域経済の縮小や生活関連サービスの店舗等の撤退、生産年齢人口の減少に伴う税収の減少や高齢者の増加による社会保障費の増大などの影響を及ぼすことが考えられます。
- このような中、本ビジョンは、急速に進む人口減少と超高齢社会へ対応するため、「社会増減対策」、「自然増減対策」、「少子高齢化社会における地域社会の維持・存続」の視点から、鹿屋市の将来あるべき姿を見据えた施策を示すことを目的として策定します。

## 2 ビジョンの位置付け

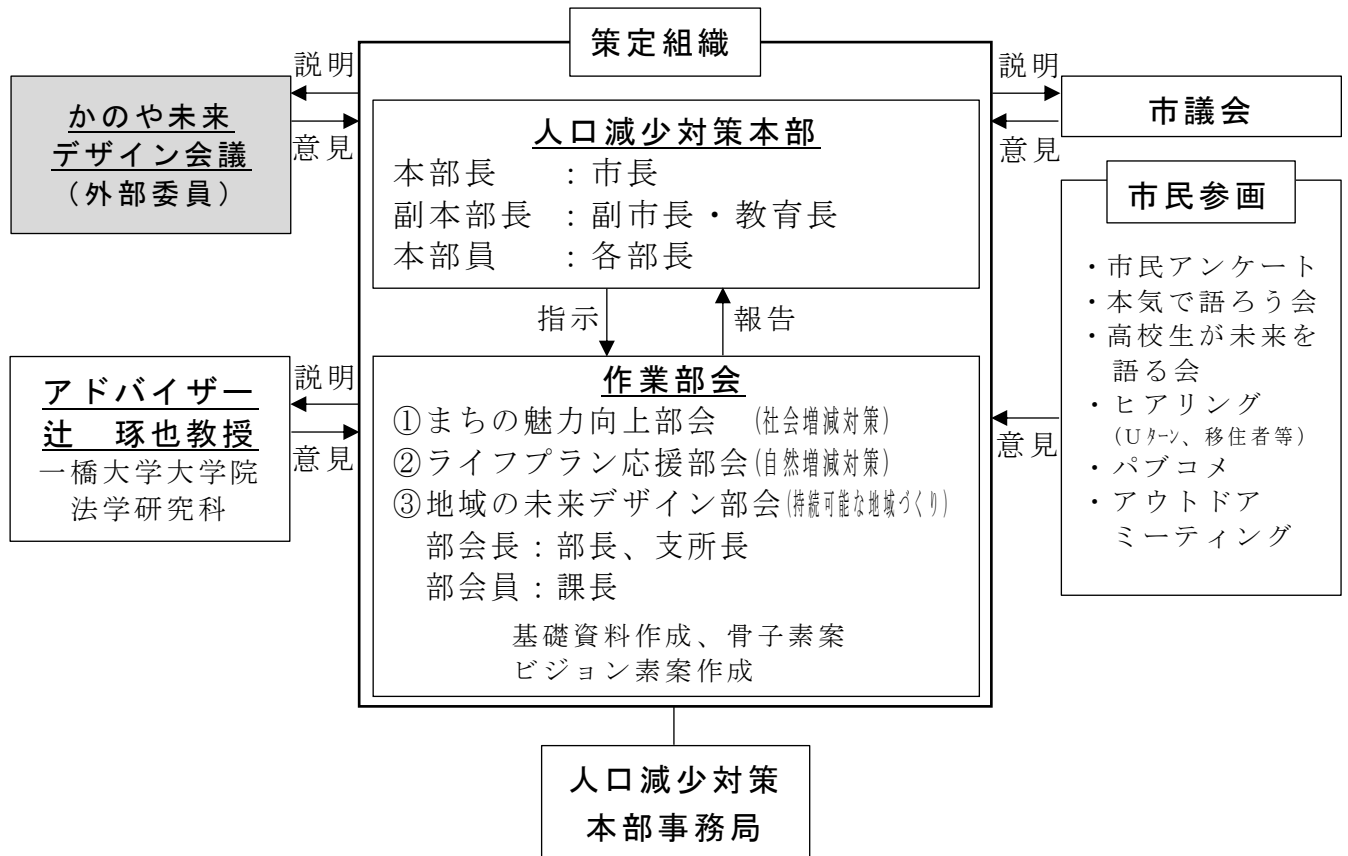
本ビジョンは、第2次鹿屋市総合計画に掲げる人口の将来目標「2060年に9万人程度の人口を維持する」の実現に向け、人口減少を押しとどめるとともに、人口減少社会における持続可能な地域づくりの達成に向けた施策を示す計画として位置付けます。

## 3 計画期間

令和5年度～令和14年度（10年間）

- ※ 今後の社会情勢や取組の効果、総合計画の改訂状況を踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととします。

4 策定体制について



5 策定スケジュール

時 期	開催会議
R 4. 6 月	○第1回対策本部・第1回作業部会 (9日)
R 4. 7 月	○第2回作業部会 (11~15日)
R 4. 8 月	○部会長協議 (8日) ○アドバイザー協議 (15~16日)
R 4. 9 月	○総務市民環境委員会 勉強会 (20日) ○第3回作業部会 (22, 26, 27日) ○第2回対策本部 (30日)
R 4. 10 月	<u>○第1回未来デザイン会議 (12日)</u> ○第4回作業部会 (中旬)
R 4. 11 月	○第5回作業部会 (初旬) ○第3回対策本部 (中旬) ○第2回未来デザイン会議 (中旬) ○議員説明会 (下旬)
R 4. 12 月	○パブリックコメント (上旬~R5. 1月上旬)
R 5. 1 月	○第4回対策本部 (中旬)
R 5. 2 月	○第3回未来デザイン会議 (上旬)
R 5. 3 月	人口減少対策ビジョン策定

## 6 ビジョンの構成(骨子案)

### 第1章 ビジョンの策定にあたって

議事(1)

- 1 背景・目的
- 2 ビジョンの位置付け
- 3 計画期間

### 第2章 鹿屋市を取り巻く人口減少の現状

説明

- 1 人口の動向
- 2 人口減少の要因
- 3 鹿屋市の特徴
- 4 人口減少による影響

### 第3章 人口減少への対応(第2次鹿屋市総合計画の推進によるまちづくり)

- 1 これまでの取組の効果検証
- 2 各種調査に基づく踏まえるべき視点(課題)

議事(2)①

### 第4章 ビジョンの基本的な考え方

- 1 目指す将来像
- 2 人口の将来目標
- 3 施策の展開
- 4 施策体系
- 5 重点施策

議事(2)②

### 第5章 施策の方向性と取組

### 第6章 ビジョンの推進

- 1 各主体の役割
- 2 推進体制



これまでの取組の効果検証(案)

第2次鹿屋市総合計画に基づき、令和3年度に実施した事業について、特に人口減少対策に効果があると判断された事業を取組別に「主な取組」と「主な実績等」としてまとめ、それぞれの取組に対する市民等の意見を「今後踏まえるべき視点(課題)」として整理

人口減少対策の視点	特に効果があると判断された主な取組	主な実績等(実績値/目標値)	今後踏まえるべき視点(課題)					
<p>住みたくなる・行ってみたくなるまちづくり (社会増減対策)</p> <p>移住・定住、雇用・就業、関係・交流人口の増加や市の知名度向上</p> <p>【まちの魅力向上部会】</p>	<p>移住・定住に向けた支援</p> <p>新規就農や農業法人への支援</p> <p>企業立地等による雇用の創出</p> <p>地元就職への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市(かのや移住サポートセンター)を経由した移住者数 ⇒R1:10件/50件、R2:40件/50件、R3:29件/50件</li> <li>新規就農者件数(H26~R3)⇒耕種59人、畜産37人</li> <li>畜産中核農家(20頭以上)割合 ⇒R1:20.5%/20%、R2:23.7%/21%、R3:26%/21.5%</li> <li>創業者件数 ⇒R1:38件/50件、R2:28件/50件、R3:45件/50件</li> <li>企業立地協定締結件数 ⇒R1:5件/5件、R2:1件/5件、R3:2件/5件</li> <li>サテライトオフィス開設件数 ⇒R3:1件/5件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新規就農する際に、研修品目が少ない、初期投資の負担大</li> <li>○就農後の経営安定化が難しい</li> <li>○経験(キャリア)や資格を生かせる仕事が少ない</li> <li>○魅力的(賃金や福利厚生)な雇用の場が少ない</li> <li>○後継者・担い手不足による事業者の廃業が増えつつある</li> <li>○若者が地元企業・仕事を知らないまま、市外に進学・就職している</li> </ul>					
				<p>関係・交流人口</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地イベント等参加人数 ⇒R1:約3.1万人/3.1万人、R2:約4千人/3.1万人、R3:約1.1万人/3.1万人</li> <li>ふるさと納税寄附件数 ⇒R1:約13.5万件/10万件、R2:約13.5万件/10万件、R3:15.5万件/10万件</li> <li>スポーツ合宿者数 ⇒R1:2万件/2万件、R2:約3千件/2.1万件、R3:約1万件/2.2万件</li> <li>観光入込客数 ⇒R1:約153万人/150万人、R2:約90万人/150万人、R3:約83万人/150万人</li> <li>「かのや100チャレ」参加校・参加生徒数(延べ)⇒63校536人</li> <li>※R2・3はコロナ禍の影響あり(スポーツ合宿者数及び観光入込客数)</li> </ul> <p>(R3の新たな実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鹿屋市PR動画(サンシャイン池崎)制作・配信⇒全8話、YouTube116万回再生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市外に転出した際に鹿屋市の情報とつながれない</li> <li>○鹿屋市の魅力など、市民発の情報が少ない</li> </ul>		
							<p>地域資源を生かした誘客促進</p> <p>スポーツ合宿の推進</p>	

議事(2)②  
重点施策(案)へ反映

これまでの取組の効果検証(案)

第2次鹿屋市総合計画に基づき、令和3年度に実施した事業について、特に人口減少対策に効果があると判断された事業を取組別に「主な取組」と「主な実績等」としてまとめ、それぞれの取組に対する市民等の意見を「今後踏まえるべき視点(課題)」として整理

人口減少対策の視点	特に効果があると判断された主な取組	主な実績等(実績値/目標値)	今後踏まえるべき視点(課題)
ライフステージを応援するまちづくり (自然増減対策) 結婚・出産・子育て支援、教育の充実、健康寿命の延伸等	結婚・妊娠・出産・子育ての希望を叶える 結婚を希望する人への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婚活イベント参加人数(延べ) ⇒R3:116名(男性59名、女性57名)</li> <li>・不妊治療費助成延べ件数 ⇒R1:119件、R2:103件、R3:111件</li> <li>うち母子手帳発行件数 ⇒R1:55件、R2:36件、R3:51件</li> <li>・訪問産後ケア利用者 ⇒R1:143件/140件、R2:140件/145件、R3:134件/150件</li> <li>・子育てアプリ登録者数⇒R1:724人/800人、R2:932人/800人、R3:1,096人/800人</li> <li>・子育て広場利用者数 ⇒R1:約2.7万人/3万人、R2:約1.7万人/4万人、R3:約1.9万人/4.15万人</li> <li>※R2・R3 コロナ禍での利用制限あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚のきっかけとなる出会いの場が少ない</li> <li>○出産や子育てしやすい環境づくり(共働き支援など)</li> <li>○出産・子育て・教育にかかる経済的負担へのサポート</li> <li>○育児サポートを必要とする母親の心・体・時間に余裕を生むための支援</li> </ul>
	妊娠・出産を希望する人への支援	【国・県・市による支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育・保育料無償化(3歳以上のこども+非課税世帯の0~2歳児)利用者延べ人数⇒R3:8,538人</li> <li>・子どものショートステイ延べ利用者数(延べ利用日数)⇒R3:5人(31日)</li> </ul>	
	子育てへの経済的支援	【県・市による支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども(0歳児から高校卒業(18歳に達する日以後の最初の3月31日)までの者)医療費助成⇒R3:登録者数17,590人、1人あたり助成額平均23,089円</li> </ul>	
	子育てしやすい環境整備	【市独自の支援内容】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙おむつ購入に係る助成券(12,000円分)(満1歳未満の乳児の保護者)の申請件数⇒R3:964件</li> <li>・チャイルドシート無料貸出件数 ⇒R3:217件(出産予定1か月前から1歳未満の乳児の保護者)</li> </ul>	
【ライフプラン応援部会】	教育環境の充実 特色ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NRT標準学力調査偏差値平均: ⇒小学校 R1:47.5点/49.7点、R2:49.2点/50.5点、R3:50.2点/50.5点 中学校 R1:44.9点/48.3点、R2:47.8点/50点、R3:48.4点/50点</li> <li>・英検3級相当の英語力のある生徒の割合 ⇒R1:37.5%/50%、R2:46.1%/43%、R3:32.2%/45%</li> <li>・鹿屋女子高校定員充足率(目標:100%)⇒R1:76%、R2:80%、R3:83.5%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特色ある教育(英語力等)の充実と強化</li> </ul>
	生きがいきづくり・健康づくり 若年層への健康づくり支援 高齢者の健康・生きがいきづくりへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ実施率(市民意識調査) ⇒R1:44.8%/44%、R2:45.8%/48.2%、R3:47.1%/52.4%</li> <li>・30代無料健診実施数⇒R1:400件、R2:216件、R3:221件 ※R2・3はコロナ禍での受診控え等により減少</li> <li>・介護予防教室参加者 ⇒R1:238人/480人、R2:136人/720人、R3:232人/720人 ※R2・R3はコロナ禍での利用控えあり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働く世代の健康意識が低い</li> <li>○若者がライフプラン(結婚・妊娠・出産等)について学び考える機会が少ない</li> <li>○コロナ禍による高齢者の健康不安が増している</li> </ul>

議事(2)② 重点施策(案)へ反映

これまでの取組の効果検証(案)

第2次鹿屋市総合計画に基づき、令和3年度に実施した事業について、特に人口減少対策に効果があると判断された事業を取組別に「主な取組」と「主な実績等」としてまとめ、それぞれの取組に対する市民等の意見を「今後踏まえるべき視点(課題)」として整理

人口減少対策の視点	特に効果があると判断された主な取組	主な実績等(実績値/目標値)	今後踏まえるべき視点(課題)
<p>いつまでも住み続けられる地域づくり (持続可能な地域づくり)</p> <p>地域の共生・協働、コミュニティ活動等の維持、防災、見守り、生活環境整備等</p> <p>【地域の未来デザイン部会】</p>	<p>地域生活機能の補完</p> <p>地域の主体的な活動への支援</p> <p>地域住民の移動手段確保への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会加入率 ⇒R1: 70.9%/72.3%、R2: 70%/72.5%、R3: 68.7%/72.7%</li> <li>・個人・ボランティア活動者数(ボランティアポイントの活用) ⇒R1: 2,842人/1,790人、R2: 2,961人/1,850人、R3: 3,475人/1,850人</li> <li>・地域運営組織数: 3団体(H27)⇒13団体(R3)</li> <li>・地域間幹線系統バス及び廃止路線代替バス系統数 ⇒R1: 34系統/34系統、R2: 34系統/34系統、R3: 32系統/33系統</li> <li>・くるりんバス及び乗合タクシー利用者数 ⇒R1: 36,046人/33,701人、R2: 31,320人/36,161人、R3: 31,769人/38,621人</li> <li>・ドライブサロンの実施地区 ⇒生活支援型: 7地区・生きがいつくり型: 2地区(R3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担い手不足による地域活動の縮小</li> <li>○デジタル技術の活用方法が分からない地域が多い</li> <li>○買物や通院等が困難な地域がある</li> </ul>
	<p>郷土愛の醸成</p> <p>郷土愛の醸成につながる教育の推進</p> <p>地域の文化継承への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寺子屋の開設状況(累計) ⇒R1: 18ヶ所、R2: 25ヶ所、R3: 29ヶ所</li> <li>・かのや学校応援団(延べ回数/参加者数) ⇒R1: 3,137回/10,383人、R2: 2,916回/8,374人、R3: 3,560回/10,530人</li> <li>・市内の郷土芸能保存団体数 ⇒R3: 50団体(※5団体休止中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域から若者が減少することで伝統芸能や文化の継承が困難になっている</li> </ul>
	<p>安全安心な暮らしを守る</p> <p>地域防災力の向上・交通安全対策</p> <p>快適な居住環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災出前講座参加者数 ⇒R1: 436人/500人、R2: 842人/500人、R3: 510人/600人</li> <li>・通学路合同点検実施箇所改善実施率 ⇒R1: 80%/83%、R2: 74%/81%、R3: 73%/82%</li> <li>・空き家等バンク登録物件改修、活用促進等に対する支援 ⇒R3: 12件</li> <li>・危険空家解体撤去支援 ⇒R1: 23件、R2: 37件、R3: 43件</li> <li>・支え愛ファミリー住宅改修応援事業利用件数(延べ) ⇒R1: 210件、R2: 190件、R3: 200件</li> <li>・有害鳥獣対策(侵入防止柵の設置、猟友会捕獲活動等) ⇒(R1~R3): 事業費93,341千円 ⇒(被害額) R1: 6,419千円/5,269千円、R2: 8,099千円/7,746千円、R3: 7,023千円/6,864千円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時の避難に不安な住民がいる</li> <li>○一人暮らしの高齢者が増えている</li> <li>○空き家、危険家屋が増えている</li> <li>○鳥獣被害に困っている地域がある</li> </ul>

議事(2)② 重点施策(案)へ反映

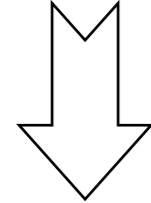
明るい未来づくりのための施策

人口減少対策に効果的な取組を抽出

課題の洗い出しとキーワード選出

今後の新たな取組(重点施策)の構築

<まちづくりの将来像>  
ひとが元気！まちが元気！  
「未来につながる健康都市 かのや」



第2次鹿屋市  
総合計画

【やってみたい仕事ができるまち】

- 活力ある農林水産業の振興
- 商工業の振興と雇用の促進

【いつでも訪れやすいまち】

- 地域資源を生かした観光の推進
- スポーツによる交流の推進
- 移住・定住の推進

【子育てしやすいまち】

- 子育て支援の充実
- 未来につながる教育の充実

【未来につながる住みよいまち】

- 快適な生活基盤づくりの推進
- 安全で安心な生活の実現
- 自然環境にやさしいまちづくりの推進

【ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち】

- 地域福祉の充実
- 健康づくり・生きがいづくりの推進
- 共生協働・コミュニティ活動の推進



それぞれの視点ごとに効果を検証

社会増減対策

【移住・定住・雇用創出】

- 移住・定住に向けた支援
- 新規就農や農業法人への支援
- 企業立地による雇用の創出
- 地元就職への支援

【関係交流人口】

- 地域資源を生かした誘客促進
- スポーツ合宿の推進
- シティセールスによる知名度向上

自然増減対策

【結婚・妊娠・出産・子育ての希望を叶える】

- 結婚を希望する人への支援
- 妊娠・出産を希望する人への支援
- 子育てへの経済的支援
- 子育てしやすい環境整備

【教育環境の充実】

- 特色ある教育の推進

【健康・生きがいづくり】

- 若年層への健康づくり支援
- 高齢者の健康・生きがいづくりへの支援

持続可能な地域づくり

【地域生活機能の補完】

- 地域の主体的な活動への支援
- 地域住民の移動手段確保への支援

【郷土愛の醸成】

- 郷土愛の醸成につながる教育の推進
- 地域の文化継承への支援

【安全安心な暮らしを守る】

- 地域防災力の向上・交通安全対策
- 快適な居住環境づくり

課題

- ◆新規就農の際の研修品目が少ない、初期投資の負担が大きい
- ◆就農後の経営安定化が難しい
- ◆経験(キャリア)や資格を生かせる仕事が少ない
- ◆魅力的(賃金や福利厚生)な雇用の場が少ない
- ◆後継者・担い手不足による事業者の廃業が増えつつある
- ◆若者が地元の企業・仕事を知らないまま市外に進学・就職している
- ◆市外に転出した際に鹿屋市の情報とつながれない
- ◆鹿屋市の魅力など、市民発の情報が少ない

- ◆結婚のきっかけとなる出会いの場が少ない
- ◆出産や子育てしやすい就労環境づくり(共働き支援など)
- ◆子育て・教育にかかる経済的負担のサポート
- ◆育児サポートを必要とする母親の心・体・時間に余裕を生むための支援
- ◆特色ある教育(英語力等)の充実・強化
- ◆若い世代の健康意識が低い
- ◆若者がライフプラン(結婚・妊娠・出産等)について学び考える機会がない
- ◆コロナ禍による高齢者クラブ等の活動の減退

- ◆担い手不足による地域活動の縮小
- ◆デジタル技術の活用方法が分からない地域が多い
- ◆買物や通院等が困難な地域がある
- ◆地域から若者が減少することで、伝統芸能や文化の継承が困難になっている
- ◆災害時の避難が不安な住民がいる
- ◆一人暮らしの高齢者の増加
- ◆空き家、危険家屋の増加
- ◆鳥獣被害に困っている地域がある

キーワード

- ① 農業と言えば鹿屋
- ② 人生の岐路で鹿屋市を選ぶ
- ③ 誰もが知っている・羨望されるふるさと

- ① 結婚・子育てするなら鹿屋
- ② 未来にはばたく人材育成
- ③ 心も体も健康的な人生設計

- ① 地域を愛し、人がつながる
- ② これまで通りに普通に暮らせる
- ③ みんなで支え合い、安心して暮らせる

目玉となる取組のアイデア出し

【雇用創出】

- 日本一の農業都市へのチャレンジ
- 多様な働き先の確保
- 地域産業の維持

【移住・定住】

- 移住の促進
- 定住の促進

【情報発信、関係・交流人口】

- ふれあいと交流の拠点づくり
- 効果的な情報発信

【結婚・出産・子育て支援】

- 結婚に対する支援
- 安心して妊娠・出産できる環境づくり
- 子育て支援

【教育の充実】

- 魅力ある教育環境の整備

【健康寿命の延伸、ライフスタイル支援】

- 体力の維持向上
- 充実したライフステージの実現

【人材活用】

- 世代や地域の枠を超えた地域づくり

【人材活用】

- 地域への愛着と誇りを持つ人材の育成

【地域機能の維持】

- 移動・買物支援
- デジタルの活用

【見守り・困りごと支援】

- 見守り・困りごと支援

【生活環境】

- 快適な居住環境づくり



新たな切り口

Ex.  
・鹿屋の魅力度アップ  
・鹿屋のブランド力の向上  
・羨望される・誇れるまちなど

施策体系を整理

素案作成

1 基本的な考え方

重点施策は、ビジョンに掲げる本市の将来像を実現するため、「施策展開の基本方向・施策の柱」に対する「本市の特徴」及び「効果検証で整理した課題」から導かれた「キーワード」を踏まえ、優先的かつ重点的に取り組む施策として位置付ける。

■まちの魅力向上部会

施策展開の基本方向・施策の柱	鹿屋市の特徴	効果検証で整理した課題	キーワード	重点施策(案)		
				具体的な施策(案)	施策内容の一例、見込める効果 など	
<p>人が行き交う賑やかなふるさとづくり</p> <p>【社会増減対策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者(15~29歳)の転出割合が全体の45%</li> <li>・市内高校卒業者のうち市外就職者が約8割</li> <li>・近隣市町へ通勤又は近隣市町から通勤するケースの二面性がある。</li> <li>・若い就業者(20~40歳代)は市外出身者も多い。</li> </ul>	<p>【農業分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新規就農する際の研修品目が少ない</li> <li>○初期投資の負担が大きい</li> <li>○経営安定化が難しい</li> </ul> <p>【雇用・就業分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経験(キャリア)や資格を生かせる仕事が少ない</li> <li>○魅力的(賃金や福利厚生)な雇用の場が少ない</li> <li>○後継者・担い手不足による事業者の休廃業が増えつつある</li> <li>○若者が地元の企業・仕事を知らないまま、市外に進学・就職している</li> </ul> <p>【情報分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市外に転出した際に鹿屋市の情報とつながれない</li> <li>○鹿屋市の魅力など、市民発の情報が少ない</li> </ul>	<p>農業と言えば鹿屋</p>	<p>雇用創出</p>	<p>【日本一の農業都市へのチャレンジ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農希望者(新規・後継者・研修生など)や規模拡大を目指す農業者への支援</li> <li>・鹿屋農業高校や農業系大学との連携強化による就農しやすい環境づくり</li> <li>・誰でも農業に親しめる環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設園芸の研修品目の拡充や規模拡大を目指す農業者への支援、後継者育成につながる研修生の確保、農業者だけでなく誰でも農業に親しめる仕組みをつくることで、農業をしたい人が移住してくる。また、本市にいる間に農業に興味を持てる。</li> </ul>
			<p>人生の岐路で鹿屋を選ぶ</p>	<p>移住・定住</p>	<p>【多様な働き先の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな工業団地の整備と電子関連・物流関連企業など幅広い分野の企業誘致</li> <li>・市内高校生等や企業と連携したデジタル人材の育成</li> <li>・就活サイトの活用支援など企業・雇用情報の効果的な発信による地元就職支援の強化・充実</li> <li>・大学生が卒業後市内で就業しやすい仕組みづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業団地整備と企業誘致による雇用の場の創出は、若者の地元就職を誘引する。</li> <li>・全国的にデジタル人材が不足しているため、デジタル人材育成のきっかけ、環境を作る。</li> <li>・市内中学・高校在学中に地元企業の情報や魅力を知ること、地元就職やUターンのきっかけとなる。企業を知ることUターンしやすいという声もある(語ろう会)</li> <li>・鹿屋体育大学生の就職までのパターンはOBを踏襲するケースが多いため、市内での就職実績を作れば、就職パターンとして確立でき、卒業後も本市に残る。</li> </ul>
			<p>誰もが知ってる・羨望されるふるさと</p>	<p>関係・交流人口</p>	<p>【地域産業の維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊制度を活用した事業承継や後継者育成の取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域産業を維持(事業承継等)することは、街の活性化や賑わいにつながり、若者の定住者が増える。</li> </ul>
					<p>【移住の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国の支援金制度に該当しない移住者への支援</li> <li>・UIJターン希望者が魅力を感じる支援</li> </ul> <p>【定住の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住者や若者が本市に留まるための支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の支援金制度に該当しない東京圏以外の移住希望者を取り込める。</li> <li>・UIJターン希望者が魅力を感じる支援を構築すれば、移転先として選んでもらえる。</li> </ul>

※「具体的な施策(案)」については、現時点での考えられる施策の案であり、今後、事業の内容や費用対効果、実施時期など、取組の実現に必要な事項を精査していくものである。

1 基本的な考え方

重点施策は、ビジョンに掲げる本市の将来像を実現するため、「施策展開の基本方向・施策の柱」に対する「本市の特徴」及び「効果検証で整理した課題」から導かれた「キーワード」を踏まえ、優先的かつ重点的に取り組む施策として位置付ける。

■ライフプラン応援部会

施策展開の基本方向・施策の柱	鹿屋市の特徴	効果検証で整理した課題	キーワード	重点施策(案)		
				具体的な施策(案)	施策内容の一例、見込める効果 など	
ライフプランの希望が叶い、いつまでも健やかに暮らせるまちづくり 【自然増減対策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婚姻数が減少</li> <li>・女性人口の減少に伴う出生数が減少</li> <li>・理想の子ども数を持つことに、経済的・金銭的負担を感じている。</li> <li>・合計特殊出生率が高い。</li> <li>・市立の女子高と看護学校がある。</li> </ul>	<p>【結婚・妊娠・出産分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚のきっかけとなる出会いの場が少ない。</li> </ul> <p>【子育て・教育分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○出産や子育てしやすい環境づくり(共働き支援など)</li> <li>○出産・子育て・教育にかかる経済的負担へのサポート</li> <li>○育児サポートを必要とする母親の心・体・時間に余裕を生むための支援</li> <li>○特色ある教育(英語力等)の充実・強化</li> </ul> <p>【健康・生きがい分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○働く世代の健康意識が低い。</li> <li>○若者がライフプラン(結婚・妊娠・出産等)について学び考える機会が少ない。</li> <li>○コロナ禍において、高齢者の健康不安が増幅している。</li> </ul>	結婚・子育てするなら鹿屋	結婚・出産・子育て支援	<p>【結婚に対する支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・婚活イベントへの支援</li> <li>・婚活サポーター(公募)による結婚相談や支援体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚希望者が独身でいる最大の理由は「適当な相手に巡り会わない」であり、様々な婚活イベントを実施することで、希望者が出会い、結婚のきっかけができる。</li> <li>・結婚に関する相談相手や支援員を確保することで、希望する人が円滑に結婚できる(愛知県東海市)</li> </ul>
					<p>【安心して妊娠・出産できる環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出産後の心身的・経済的支援</li> <li>・ニーズに応じた産後ケアサービスの拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣自治体(肝付町・南大隅町)で出産祝い金を支給しており、同様の祝い金支給を求める声がある。(子育て世代アンケート)</li> <li>・産後の母親からサポートを望む声がある。</li> <li>・宿泊型、日帰り型、訪問型などニーズに応じた産後ケアを実施することで、産後の心身のケアと、産後うつや孤立化を予防できる。(兵庫県明石市)</li> </ul>
					<p>【子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世帯向け家事・育児支援</li> <li>・育児休暇取得促進につながる事業主や労働者への啓発・支援</li> <li>・高校、大学進学に係る経済的支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し息抜きできる時間が欲しいという母親の意見が多く、家事・育児ヘルパーサービスを利用しやすくすることは、母親の心身的負担の軽減につながり、子育てへの意欲が保たれる(兵庫県明石市)</li> <li>・産休・育休の取得について、職場の理解不足や収入が減ることへの不安から取得しづらいとの声がある。</li> <li>・高校、大学進学に係る経済的な支援を求める声が多いため、給付型奨学金での支援は子育て世帯の経済的負担の軽減に効果がある。</li> </ul>
					<p>【魅力ある教育環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿屋体育大学と連携した活動の拡充</li> <li>・海外大学との交流による英語力の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な教育環境の充実・他自治体との差別化は、子どもの教育に力を入れる親を取り込むことができる。</li> <li>・台北教育大学との交流による英語力の強化は、魅力ある教育環境として子育て世帯にアピールできる。</li> </ul>
					<p>【体力の維持向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自転車を活用したまちづくり」推進による体力の維持向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の特徴的な取組である「自転車によるまちづくり」を推進することで、心身のリフレッシュや体力の維持向上が図られ、健康寿命を延伸できる。</li> </ul>
					<p>【充実したライフステージの実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代へのライフプラン講座、高齢者への健康づくり講座など世代に合わせた情報提供と健康意識の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚・妊娠等を考える機会が少ない若者(中高生)への講座の実施は、正しい知識を身につけさせ、希望する人の妊娠・出産の不安やリスクを軽減できる。</li> <li>・中高年層、高齢者が健康づくりに励むことで、健康寿命の延伸と死亡者数の減少につながる。</li> </ul>
			未来にはばたく人材育成	教育の充実		
			心も体も健康的な人生設計	健康寿命の延伸・ライフスタイル支援		

※「具体的な施策(案)」については、現時点での考えられる施策の案であり、今後、事業の内容や費用対効果、実施時期など、取組の実現に必要な事項を精査していくものである。

1 基本的な考え方

重点施策は、ビジョンに掲げる本市の将来像を実現するため、「施策展開の基本方向・施策の柱」に対する「本市の特徴」及び「効果検証で整理した課題」から導かれた「キーワード」を踏まえ、優先的かつ重点的に取り組む施策として位置付ける。

■地域の未来デザイン部会

施策展開の基本方向・施策の柱	鹿屋市の特徴	効果検証で整理した課題	キーワード	重点施策(案)	
				具体的な施策(案)	施策内容の一例、見込める効果 など
多様な人材が活躍し、安心・快適に生活できる地域づくり 【持続可能な地域づくり】	・若者の市外流出や少子高齢化が進んでいる地域がある。 ・高齢化率が40%を超える町内会が約5割 ・高齢化率の高い地域(輝北、高隈、海岸地域)ほど人口減少の進む割合が早い。 ・独居高齢者数が増加している。 ・公共交通の再編や縮小が進み、交通利便性が低下している地域がある。	【地域活動分野】 ○担い手不足による地域活動の縮小 ○デジタル技術の活用方法が分からない地域が多い 【地域交通分野】 ○買物や通院等が困難な地域がある 【文化・郷土教育分野】 ○地域から若者が減少することで伝統芸能や文化の継承が困難になっている 【安全安心分野】 ○災害時の避難に不安な住民がいる ○一人暮らしの高齢者が増えている ○空き家、危険家屋が増えている ○鳥獣被害に困っている地域がある	地域を愛し、人がつながる	人材活用 【世代や地域の枠を超えた地域づくり】 ・若者や域外住民を対象とした地域づくり人材の育成支援 ・地域活動を支援する市職員の副業、パラレルキャリア制度の導入 ・市職員による地域支援体制の強化	・若者や域外人材を活用することで、魅力ある活動の創出や地域活動の「見える化」、町内会・地域活動の再活性化が可能となる。(始良市重富地区) ・市職員の副業など地域をよりサポートしやすいサービス体制の整備により、集落機能や農村活動を補完する(青森県弘前市)
				人材育成 【地域への愛着と誇りを育む人材の育成】 ・中・高校と地域が連携した地域課題解決プログラムの構築 ・市内全域への寺子屋の展開	・地域への愛着を持つ子どもたちを育てることは、将来の地域貢献や地域応援につながる(長野県飯田市) ・一方、地域住民(高齢者等)が、子どもたちの見守りや郷土教育を行うことで、高齢者の生きがいづくりや共働き世帯の負担軽減になる。
			これまで通りに普通に暮らせる	【移動・買物等支援】 ・移動ニーズや地域の特性に応じた移動手段の確保 ・地域や民間と連携した交通弱者に対する買物支援	・地域内の共助や民間と連携による交通支援は、交通弱者の生活を守り、孤立化を防ぐ(山口県山口市、愛知県豊田市)
				【デジタルの活用】 ・高齢者もデジタルを活用でき、便利に生活できる環境づくり ・マイナンバーカードを利用した免許返納者支援 ・メタバース(仮想空間)を活用したデジタル市民による地域活性化	・高齢者等のデジタル格差を無くすことは、過疎地でも生活利便性が保たれ住み続けられる(茨城県稲敷市) ・免許返納後の継続した支援を求める声が多い。 ・デジタル市民の活用は、人材確保が難しい過疎地でも地域課題を解決でき、活性化できる(新潟県長岡市)
			みんなで支え合い、安心して暮らせる	【見守り・困り事支援】 ・市及び関係機関が連携し、複数の窓口に渡る困りごと相談に対し、どの機関に相談があっても、包括的に受け止める体制づくり	・市民の価値観や生活様式が多様化する中、生活の課題を複数抱える市民が増加している。 ・複数の窓口に渡る相談に対し、市民からどの機関に相談があっても、市全体で受け止める体制を構築する。(岡山県岡山市他)
				【快適な居住環境づくり】 ・空き家の利活用を促進する支援制度の構築	・空き家を増やさない取組は、危険家屋の増加や地域の空洞化、地域の衰退を防ぐことができる(神奈川県逗子市、福岡県糸島市)

※「具体的な施策(案)」については、現時点での考えられる施策の案であり、今後、事業の内容や費用対効果、実施時期など、取組の実現に必要な事項を精査していくものである。